

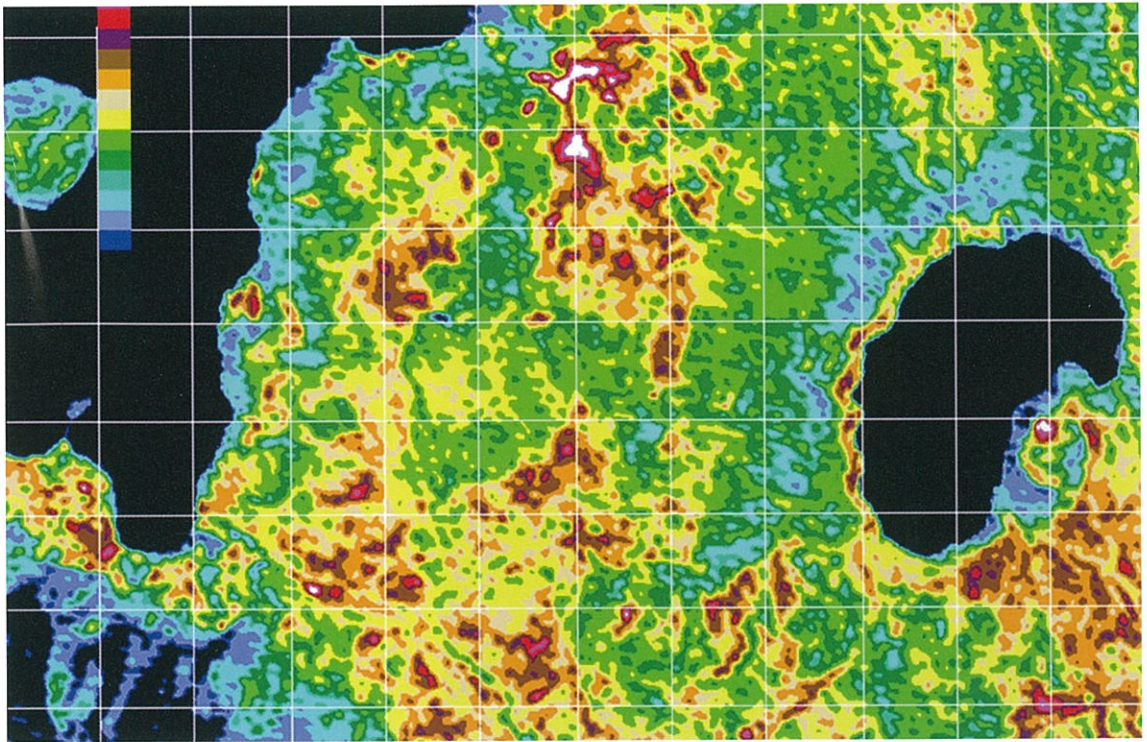
川湯・アトサヌプリ(硫黄岳)・カムイヌプリ(摩周岳)



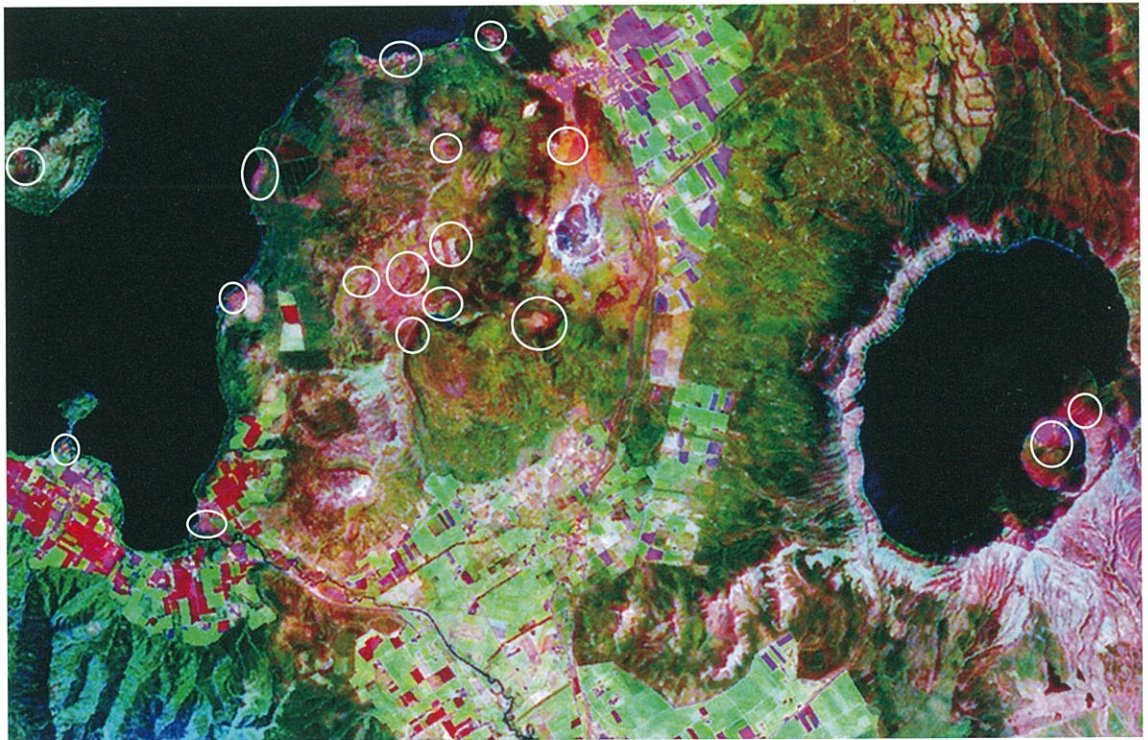
屈斜路カルデラは阿蘇カルデラを上回る世界最大のカルデラです。画像は屈斜路湖東半分から摩周湖までの中央火口丘部分です。この地は太平洋とオホーツク海を結ぶ道東縦断の交通要所になります。アトサヌプリ(硫黄岳)は、北海道最大の硫黄産出地でした。活発に噴火活動が続けるアトサヌプリ(硫黄岳)は、気象庁の常時監視対象の火山です。噴火警戒レベルは1ですが、北山麓では轟音を挙げながら熱蒸気が激しく噴出しています。アイヌ語で神の山を意味するカムイヌプリ(摩周岳)は活火山ですが、監視対象外です。山麓の火口湖、摩周湖では湖底からお湯が湧き出しています。



112-245 川湯を筆頭に湖岸に点在する温泉や和琴半島に湧出するお湯は、42℃以上の高温泉です。屈斜路湖東岸からアトサヌプリに広がる原野の自然遊歩道は、平坦で快適な散策道です。白樺林では頻繁にエゾリスに出会うことができます。



112-R006 熱の多い地域がアトサヌプリから川湯にかけてのアトサヌプリ原野、湯沼周辺に集中していることが読み取れます。カムイヌプリ(摩周岳)火口にも熱の多い場所があります。砂湯、仁伏、池ノ湯などの屈斜路湖湖岸の温泉からの熱も読み取ることができます。



112-246 多くの温泉地では源泉地を一般には公開していませんが、川湯温泉では分水(湯)駒や源泉地を見学することができます。注目する地域は湯沼周辺です、和琴半島先端では90°C以上のお湯が噴出していますが、徒歩ではたどり着くことができません。

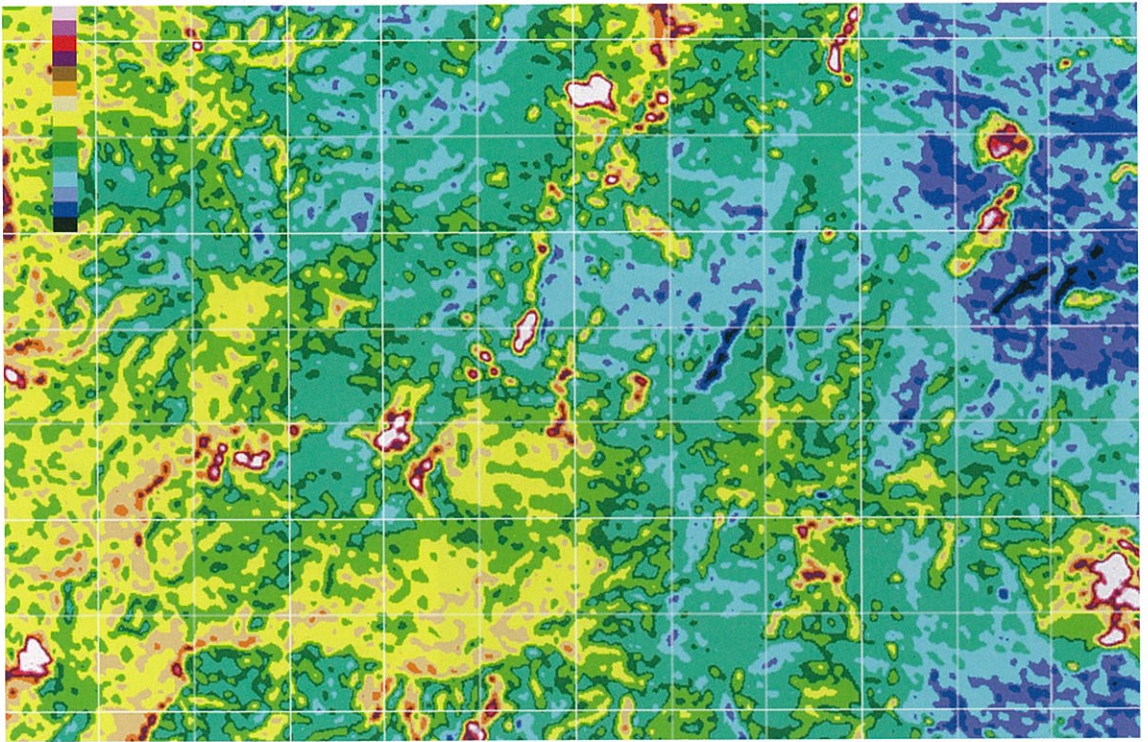
焼山・玉川・後生掛



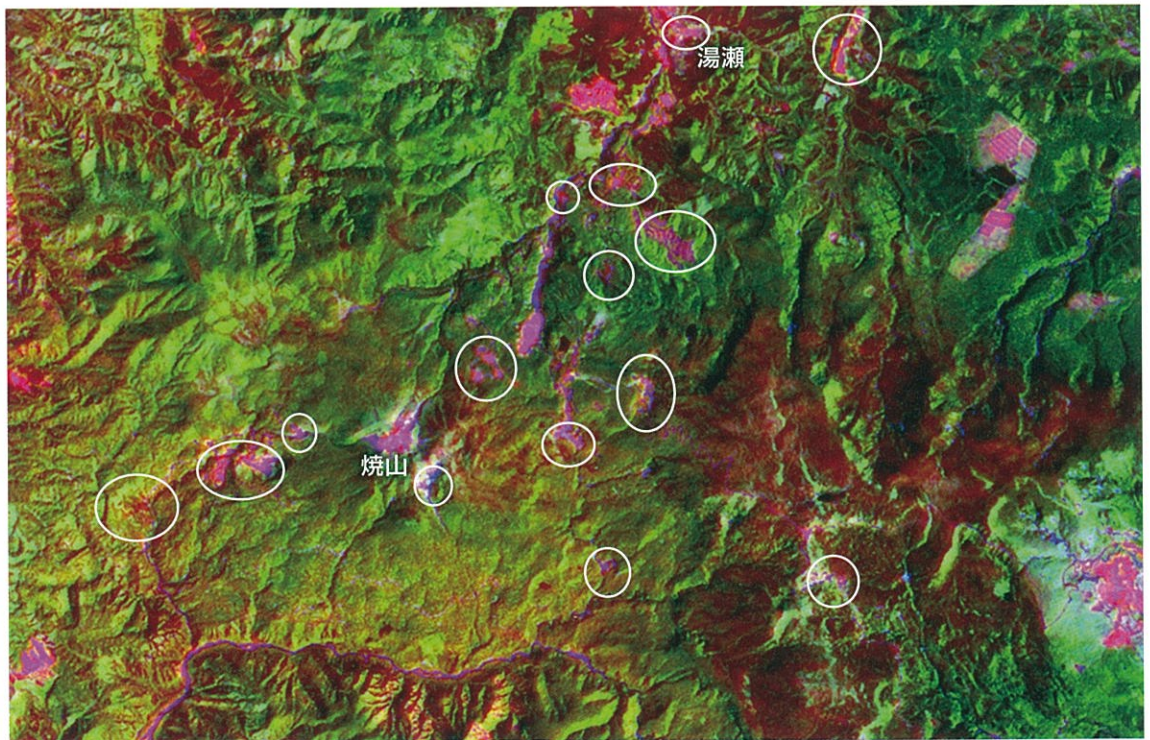
東北自動車道や東北新幹線の開通後も、安比高原あっぴ こうげんの大型施設を除いてはこの地方の温泉地には昔ながらの湯治場の風情が残されています。源泉の維持管理もきっちりと守られ、観光地の温泉にはない大自然に囲まれたやさしい温泉を楽しむことができます。八幡平入口の松尾鉾山跡地では、日本最大の硫黄鉾山の規模と廃墟から「天空都市」の虚しさを肌で感じることができます。田沢湖から鹿角市に至る国道、八幡平横断道、東北自動車道を始め、この地域では林道や沢筋の索道も整備されています。焼山は噴火警戒レベル1の活火山です。



214-245 湯瀬では河原で温泉が楽しめます。砂利を掘るため、シャベルが必要です。玉川温泉は湯治場でしたが、微弱な放射線を発する北投石で岩盤浴ができることから注目されています。トロコ温泉(閉業)ではヒ素を含む温泉水を飲んだ湯治客が死亡し、温泉毒水と呼ばれました。

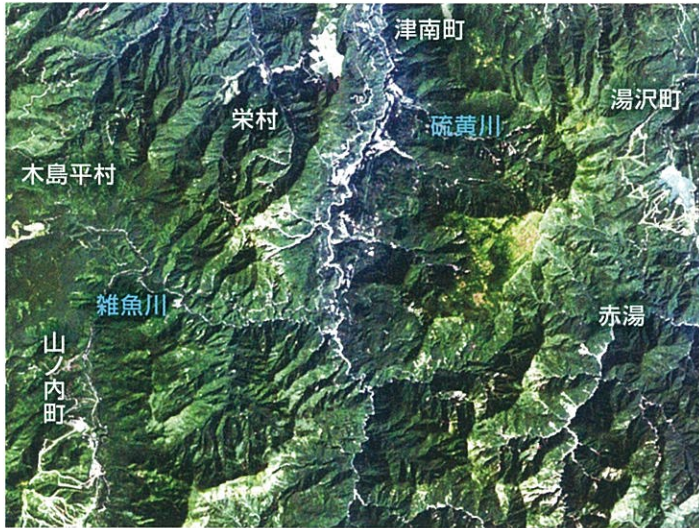


214-R006 熱の多い地域が活火山である焼山から玉川温泉、そこを流れる河川に集中していることが読み取れます。この地域では硫化鉄の鉱山が戦前から操業していました。画像上で八幡平に食い込む熱の帯が河原の温泉、湯瀬です。画像右下の大きな熱域は、松尾鉱山跡です。

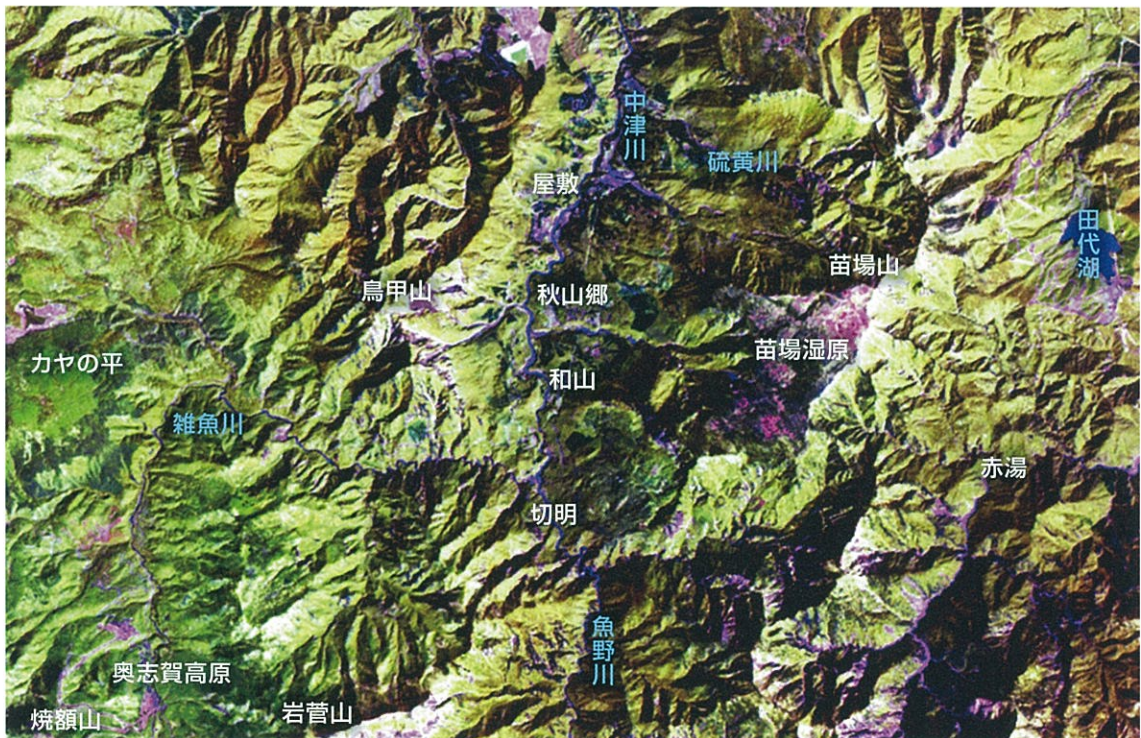


214-246 八幡平は標高1500mの山岳地です。アクセスは容易ですが、谷が深く注意が必要です。後生掛温泉に近い紺屋地獄、焼山火口南の谷合、玉川支流で後生掛温泉から南の谷間は、重要な候補地になります。

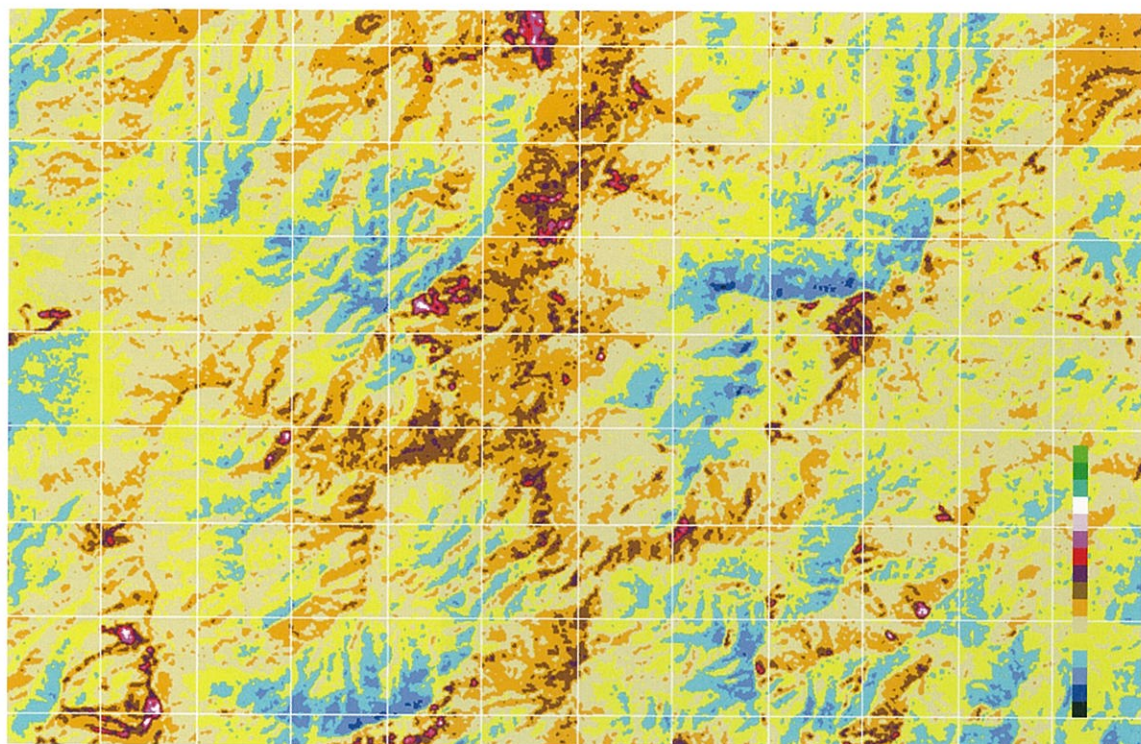
切明・赤湯・苗場



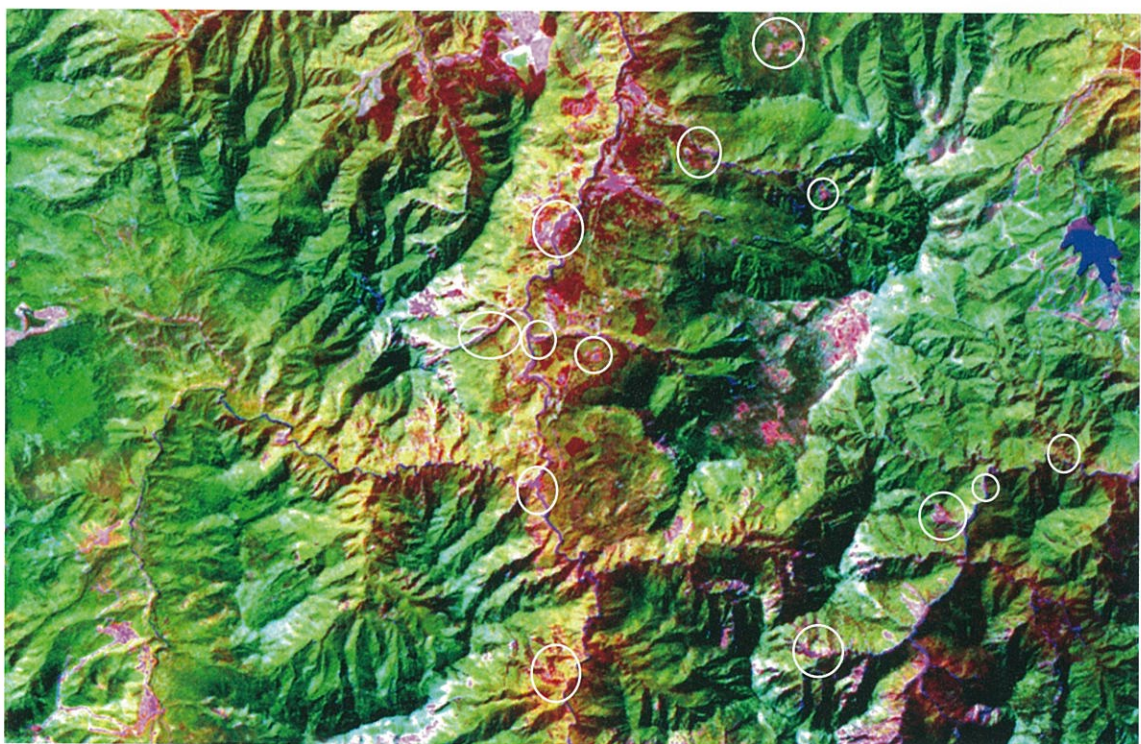
新潟県の津南町は、日本有数の豪雪地帯です。噴火警戒対象の火山はありませんが、苗場山や奥志賀高原の焼額山やけがたいやまや岩菅山いわすげやまなどは火山です。苗場山東山麓の湯沢町では、西武グループが中心になって多くのスキー場やリゾート施設が開発されました。苗場山頂の火口原に点在していた火口は火口湖となり、苗場湿原になっています。秋山郷を流れる中津川溪谷には、屋敷、和山、切明などの温泉が点在しています。最上流の切明には、50°Cほどのお湯が河原に湧いています。川の水を引き入れて湯温を調整する野泉です。苗場山を含めて林道や登山道は、整備されています。



412-245 画像中央、北から南に秋山郷を貫いて真っすぐに流れる中津川は、切明温泉を過ぎると魚野川と名称が変わります。魚野川源流は、群馬県の野反湖のぞのこです。苗場山の苗場湿原、苗場山登山のご褒美として愛されている赤湯の位置関係が読み取れます。

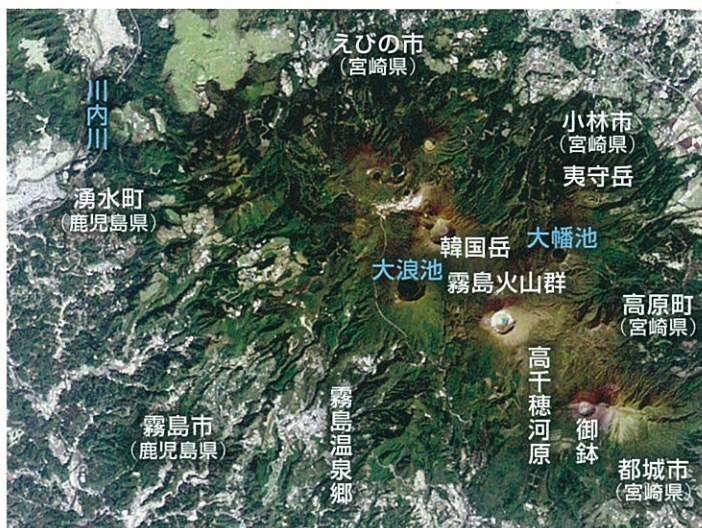


412-R006 中津川渓谷に沿って広い熱の帯が見られます。秋山郷の西、鳥甲山(2038m)の東山腹に熱の集中域があり、苗場湿原、赤湯、奥志賀高原の焼額の麓や岩菅山の南山腹にも熱の帯ができています。候補地はアクセスが容易な秋山郷を流れる中津川渓谷とその周辺域にします。



412-246 奥志賀高原や木島平から秋山郷に入るには、雑魚川沿いのカーブの多い雑魚川林道のみになります。そこで秋山郷には新潟県津南町から中津川沿いの県道津南秋山線で入ります。中津川の河原や鳥甲山麓の候補地へは、中津川西岸の旧道を使います。

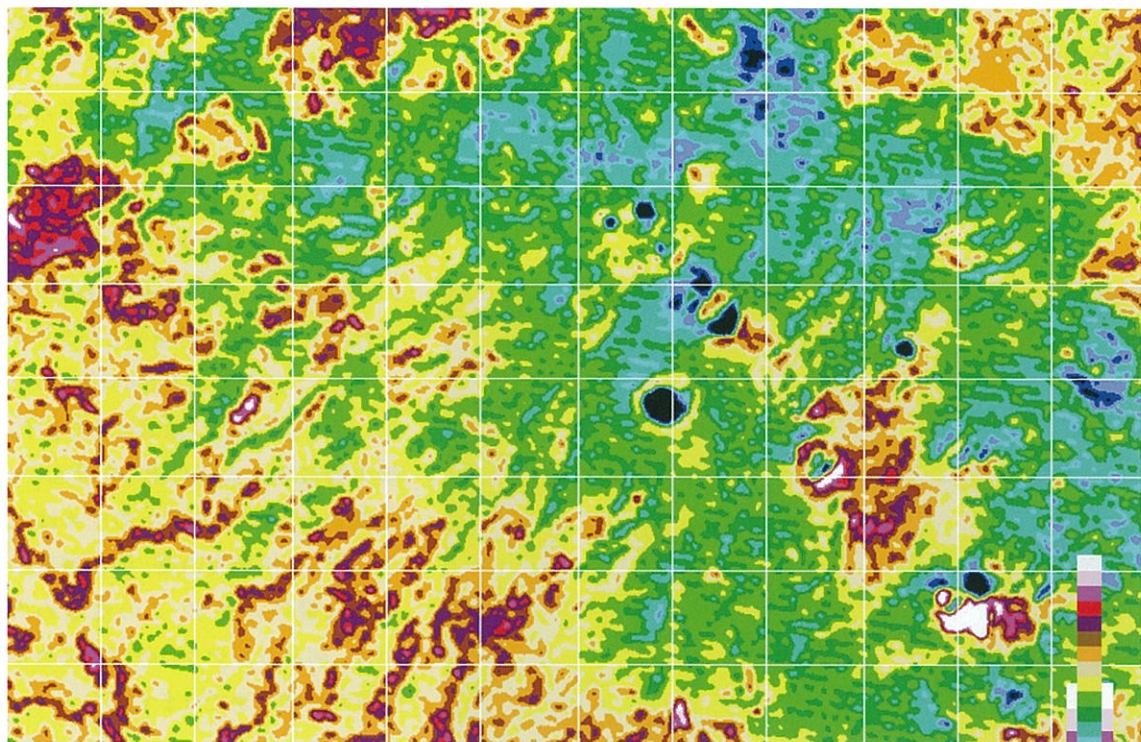
えびの高原・新燃岳・御釜



霧島火山群には、飯盛山・栗野岳から高千穂峰・御鉢まで幅5 km、長さ10 kmに満たない狭いエリアに大小20余の火山が集中しています。2011年の新燃岳(1471m)噴火では大量の火山灰が噴出されましたが火砕流などは観測されませんでした。しかし2018年2月中旬からの噴火では、溶岩が火口から流出する段階まで発展しています。2018年3月1日には警戒レベル3が発令され、火口から4 km以内への立入りが禁止されています。霧島スカイラインの内側には新湯を除き旅館や集落はありません。えびの高原ビジターセンターに近い硫黄山山麓は警戒レベル2です。



617-245 大浪池、大幡池などは、火口湖です。えびの高原ビジターセンター周辺に点在する池なども火口湖です。2018年3月以降、霧島スカイラインから内側には立入りが禁止されています。新燃岳火口に水が溜まっていますが、2011年の噴火前に観測されたデータを使っているためです。



617-R006 霧島火山群の中でも噴火中の新燃岳から中岳、高千穂峰や御釜に熱が圧倒的に集中しています。霧島演習場の南、飯盛山や栗野岳の山麓、火山群の西山麓を源流とする河川にも熱の帯ができています。本画像の強調画像を本章補足の項で取り上げておきました。参考にしてください。



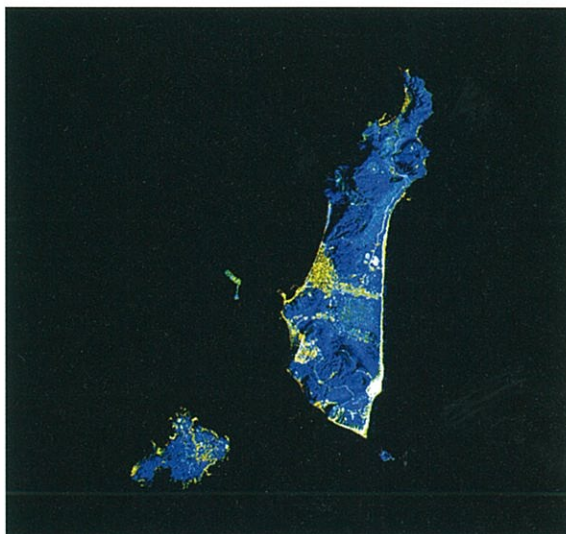
617-246 2018年3月以降、えびの高原ビジターセンターや霧島スカイラインに入る道は閉鎖されています。そのため候補地は火山群の西山麓で霧島スカイラインの外側になります。霧島温泉郷から旧牧園町(現在は霧島市)を流れる河川、霧島演習場南の栗野岳域が中心になります。

新島・式根島

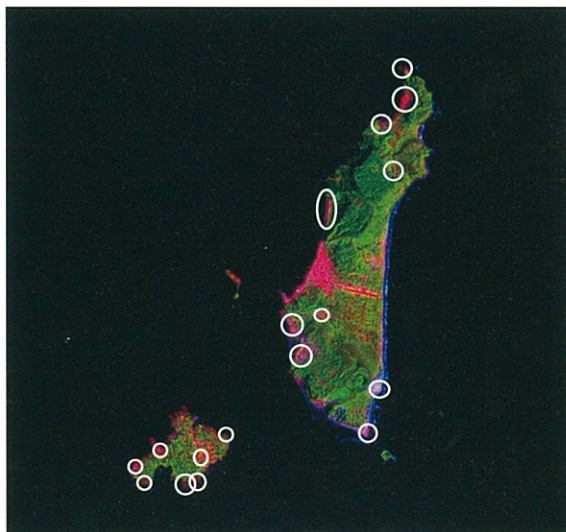
新島は、噴火警戒レベル1の活火山の島です。伊豆大島と三宅島の間位置する新島や式根島は、海底火山が隆起したものです。噴火監視対象は阿土山と思われていますが、火山島の噴火では全島民避難が原則になっています。式根島では海岸や周辺の海底から熱水が湧出しています。海流の速い海岸線には、絶対に近づかないでください。



700-123



700-457



700-246